HITO NEWS

HITO MEDICAL CENTER NEWS

2017.1
No.13

新年ご挨拶

「未来創出HITOプロジェクト」始動

- 統合型歩行機能回復センター 開設
- 全医師によるiPadを用いた実臨床データの参照・活用
- 音声認識ソフトによる医療従事者の“働き方革命”

TOPICS

寒い冬の、その先に

地域に果たす私たちの使命

―地域包括ケアシステム実現に向けて―

謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆さまに支えられ、ＨＩＴＯ病院は、５年目の春を迎えます。

この４年、地域の皆さまが住み慣れた地域で専門的な医療が受けられるよう、センター化を推進し、地域のニーズに合った病床再編や医療資源の充実に努めてまいりました。

高齢化と人口減少が同時進行し、医療・介護費の増加、支え手の不足など、様々な課題に直面しています。「高齢者が、住み慣れた自宅や地域で安心して自立した生活を営めるよう、地域の包括的な支援やサービスを提供する体制＝地域包括ケアシステム」の構築が求められています。この地域包括ケアシステム実現のために、医療と介護が歩み寄り、多職種が連携することで、切れ目のない、わかり易いサービスを提供することが、私たち石川ヘルスケアグループの使命だと思っています。今年は、皆さまの満足度の向上のために、ＩＣＴ（情報通信技術）活用を推進します。疾病予防や健康管理にも役立てていただき、医療スタッフの業務の効率化にも活用していきます。

私たちはこの地で40年、地域の皆さまと共に成長してまいりました。これからも「Human 1st.」の精神を忘れず、幅広い世代の方々のご意見に耳を傾け、皆さまの「いきるを支える」医療機関でありたいと思います。

「未来創出ＨＩＴＯプロジェクト」とは

ひとがよりよく生きるための、医療のあり方を考える。「いきるを支える」医療こそ、私たちＨＩＴＯ病院が目指す医療です。

市民の皆様が住み慣れた町で、健康に暮らしていくために、「いきるを支える」未来を創り出すプロジェクトを始動しました。

プロジェクトでは、「ＨＩＴＯ」の視点を踏まえてＩＣＴ（情報通信技術）の利活用を推進し、医療の質と業務効率の向上を図るプロジェクトです。

ＨＩＴＯの視点	
Humanity	患者さまを家族のように想い、温かく接します。
Interaction	患者さまとの対話を尊重し、相互理解に努めます。
Trust	技術と知識の研鑽に努め、信頼される医療を目指します。
Openness	心を開き、患者さまと公平に向き合います。

厚生労働省も推し進めるＩＣＴ化

平成28年３月の産業競争力会議の資料でも「医療情報の標準化や共通ＩＣＴインフラを整備し、医療の質と効率性の向上を図ることで、世界に誇る保健医療水準を維持するとともに、健康で安心して暮らせる社会を実現する。」とされています。

「未来創出ＨＩＴＯプロジェクト」における施策 第1段

Project 1

「歩くを支える。」
統合型歩行機能
回復センター 開設

Project 2

ＩＣＴを活用した
医療従事者の
働き方革命の推進

＜医療従事者＞
業務効率化の推進
入力／参照　利便性向上

＜患者さま・利用者さま＞
サービスレベル向上
満足度の向上

「未来創出ＨＩＴＯプロジェクト」を展開することによる効果

今後の保険医療は、「保険医療２０３５」にもあるように、診療支援機器や看護機器、介護機器、ロボット開発が行われ、遠隔診療や自動診断が汎用化されるなど、大幅な医療・介護の効率化や省力化が進みます。

私たちは、医療の分野にＩＣＴを活用した「未来創出ＨＩＴＯプロジェクト」としてまず2つのプロジェクトを展開し、医療サービスレベルの向上と業務効率化の推進を目指します。

そして、患者さまや利用者さまが、この地域においても安心して適切な医療が受けられるような体制を構築していきます。

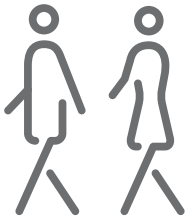
また、医療従事者においては、情報共有と診療情報の入力や参照がより便利になることで業務の効率化が図られ、その分、患者さまへの診療や看護・リハビリテーションの質やサービスレベルを高めることが可能となります。

統合型歩行機能回復センター 開設

Project 1

歩くを支える。

「いつまでも自分の足で歩きたい」
家族の介護負担を軽減し、
そのひとらしい生き方を創出し、
社会への参加を支える。



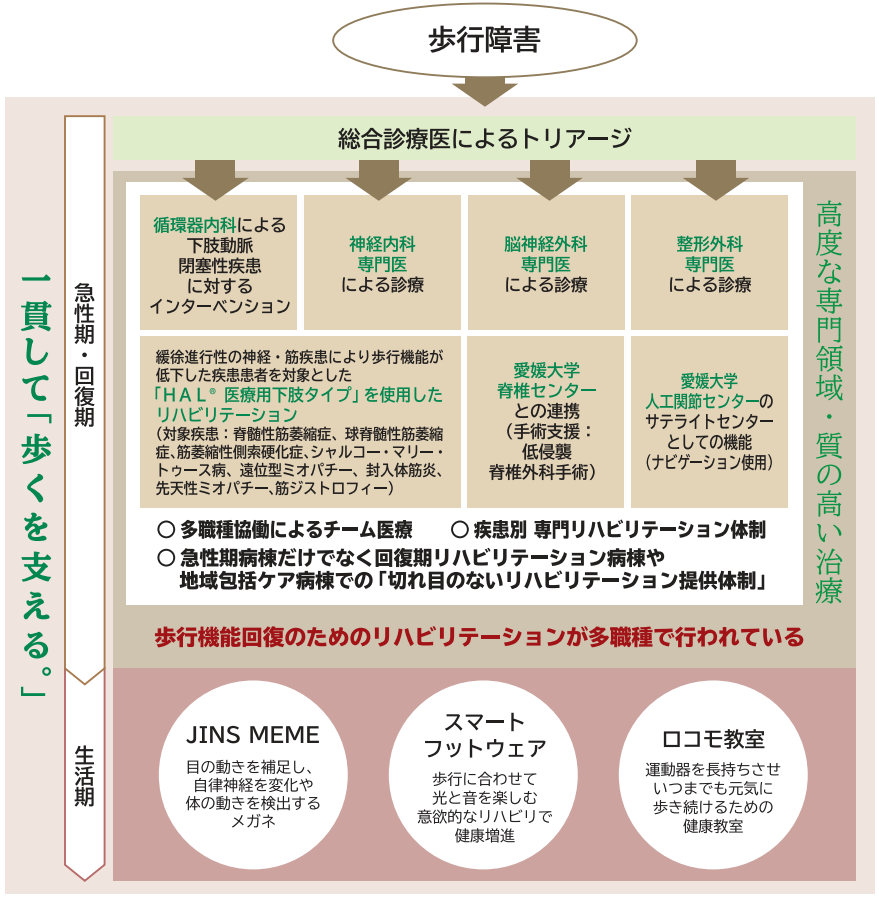
開設の背景と取り組み

膝が痛くて歩けない場合は、整形外科や人工関節センターを直接受診したり、かかりつけ医より紹介されたりしますが、痛い部位や動きにくい部位が特定できないけれど歩けない場合もあり、脳なのか脊髄なのか末梢神経、筋、下肢の循環不全…など、歩行障害の原因が特定し難い場合もあります。

そこで、「歩行」という誰もがわかる機能に着目した、わかりやすい名称とし、当院の診療機能を統合して歩行機能の回復を目指すセンターを開設しました。

また、退院後に歩行機能を低下させないことや歩行機能障害の予防が重要と考え、ロコモ教室を開催しています。けがや転倒を防止し、楽しく歩く習慣を身につけることを目的に、スマートフットウェアを活用したり、自宅で直接セラピストが指導できない状況においても自分の歩容がわかるようＩｏＴ(コンピュータなどの情報通信機器以外の様々な物に通信機能を持たせ、自動認識や制御、遠隔計測などを行うこと。)の活用にも取り組んでいます。

統合型歩行機能回復センターの機能



ロコモ（運動器障害による移動機能の低下）を予防する「ロコモ教室」

ロコモは筋肉、骨、関節、などの運動器に障害が起こり、「立つ」「歩く」といった機能が低下している状態をいいます。進行すると日常生活にも支障が生じます。

運動器を長持ちさせ、いつまでも元気に歩き続けていけるよう「ロコモ教室」を開催しており、専門医やリハビリスタッフと一緒に運動したり、ロコモについて学び、ロコモを予防する教室です。

（香川・愛媛）
北四国初導入！

緩徐進行性の神経・筋疾患の進行抑制治療において、歩行機能の改善効果が示された新たな医療機器「HAL®（ハル）医療用下肢タイプ」

「HAL® 医療用下肢タイプ」の仕組み

装着者が筋肉を動かそうとした時、脳から脊髄～運動ニューロンを介して筋肉に神経信号が伝わり、筋骨格系が動作します。

↓

このとき、微弱な BES(生体電位信号) が皮膚表面に現れます。HAL は装着者が立ち上がりや歩行をしようとした時の“生体電位信号”を読み取り、その動きに応じたアシストを行います。

↓

HAL を用いて“歩く”という動作を適切にアシストしたとき、“歩けた！”という感覚のフィードバックが脳へ送られます。これにより脳は“歩く”ために必要な信号の出し方を少しずつ学習することができます。

↓

これにより、緩徐進行性の神経・筋疾患により歩行機能が低下した患者の病気の進行を抑制し、治療に繋がる。

当該疾患患者に対する治療処置は、医療保険適用

医療機器として認可済み

歩行データの収集、分析が可能

Prof. Sankai, University of Tsukuba / CYBERDYNE Inc.　※「HAL」は、CYBERDYNE 株式会社の登録商標です。

光と音が出る、歩行データが取れるスマートフットウェア「Orphe（オルフェ）」

スマートフットウェア「Orphe」（以下、Orphe）は、歩くと音や光が出るスマートフットウェアです。スマートフォンなどと連動し、足の動きに合わせて出る「音」や「光」で楽しく歩くを実現します。楽しく歩くことで、リハビリなどに意欲的に取り組め、さらなる健康増進につながります。

また「Orphe」には、9 軸センサーが内蔵されており、歩行データがリアルタイムに収集できます。足のどこに重心が掛かっているか、足の運びがふらついていないかなど、自分の歩き方を知ることで、関節の負担を軽減し、ケガや骨折などから引き起こる歩行障害を予防する可能性があります。

人が真ん中になると、医療が変わる。

整形外科・神経内科・脳神経外科・リハビリテーション科・循環器内科などの専門医療を患者さまの視点で捉え直したらどうだろう…「歩行」という機能に着目し、医療を患者さまの側から再定義する。

専門領域だけの医療・ケアにおける分断を減らし、「歩くを支える」というビジョンを共有した多職種と相互連携しながら、継続的に歩行機能回復を支援します。

国内初※！

全医師による・iPadを用いた実臨床データの参照・活用開始

※当院調べ

Project 2

院内ネットワークの最適化 ▼ ●セキュリティ強化 ●途切れない通信	薬剤処方実績や入院後続発症の実態に関するデータ	診療ガイドライン論文の参照・検索	約500万人の実臨床データ

より最適な医療を提供するために

2016年12月より医師全員がApple社のデバイス「iPad」を持ち、シスコシステムズ（世界最大のネットワーク機器開発会社）のWi-Fiネットワークを活用し、最適化（セキュリティ強化や負荷分散による途切れない通信化）をした上で実臨床データ検索アプリを診療の現場にて活用開始しました。

導入の背景として、医療の様々な現場の中で、医師が院内を移動しながら診療する必要性が増したことから、どこでもつながるネットワーク環境の整備を行いました。

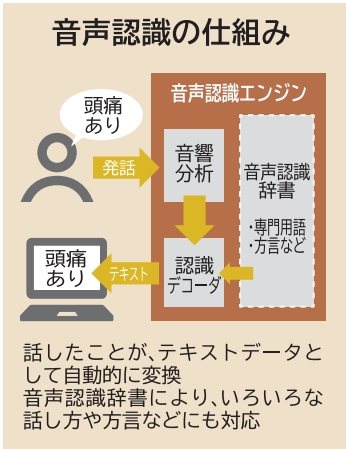
患者さまの高齢化が進み、疾病の慢性化や複合化の対応に、医師は専門外の知識も求められるようになったことから、診療ガイドラインや実臨床データをすぐに確認できる環境整備も急務となっていました。

病院の全医師が「iPad」を持ち、実臨床データを活用した診療を行うことは、国内初（※当院調べ）の事例であり、最新のICTを利用することでよりよい医療サービスを提供したいと考えています。実臨床データ検索アプリは、薬剤処方実績や入院後続発症の実態などの情報が確認できる医師を中心とした医療従事者向けの実臨床データ検索サービスです。医療従事者にとっては、薬剤を選択する際や処方説明の際の一助となります。

導入計画検討中のアプリの一つである学術専門電子書籍サービスを活用し、「iPad」で、診療ガイドラインや論文の検索が行えることで、より適切な医療を提供することが可能になると想定しています。

今後医師が持つ「iPad」には、よりよい医療サービスを提供するために必要なアプリケーションを検討・導入しながら、患者さまに質の高い医療サービスの創出に取り組んでいきます。

音声認識ソフトによる医療従事者の"働き方革命"



今までは、問診内容やカンファレンス（会議）・回診でのカルテ記載などを手で入力していましたが、話した内容がテキストデータに自動的に変換される株式会社アドバンスト・メディアの音声認識ソフト「AmiVoice®（アミボイス）」を試験運用しており、業務の効率化を図れるよう取り組んでいます。

音声認識ソフトによって、業務効率が向上し、今まで以上に診療や看護、介護などに時間をかけることができ、サービスレベルの向上につながることが期待できます。

ICTを保健医療に利活用することで、
医療サービスレベルや業務効率が向上する。

「未来創出HITOプロジェクト」で
働き方が変わり、サービスが変わる。
新しい価値をこれからの
「時代」「HITO」に創り出します。

新任医師紹介

内科医師
あかいわ　ゆずる
赤岩　譲

非常勤内科医師
きょうらく　ゆか
京楽　由佳

患者さまの気持ちに沿った医療を目指し、地域医療に貢献できるよう全力を尽くします。

患者さまの〝心に寄り添うような〟診療をしていきたいと思います。

左記の2名も愛媛大学からの非常勤医師として着任しております。

●内科　医師
花山　雅一（はなやま　まさかず）

●泌尿器科　医師
小山　花南江（こやま　かなえ）

HITO病院AMAT誕生！

All Japan Hospital Association
Medical
Assistance
Team

AMATとは
『全日本病院協会災害時医療支援活動班』のことで、先の東日本大震災の教訓から創設されました。行政や他の支援チームと連携して活動します。

AMATは、「災害の（急性期～）亜急性期において災害医療活動を行うことができる研修・訓練を受け、災害時要援護者にも配慮した医療救護活動を行える医療チーム」とされており、災害現場での医療支援・被災地の民間病院の支援が主な活動です。

この度、AMAT養成研修に医師、看護師、業務調整員の計3名が研修に参加し、試験に合格しました。これにより、当院はAMAT病院となりました。

今後は、災害用の施設・設備・備品を整備すると共に、定期的な災害訓練を通じて、災害対応力を向上させていく予定です。

第20回全国病院広報研究大会 HISフォーラムin四国中央

平成28年11月12日(土)に「第20回全国病院広報研究大会」が当院にて開催されました。

本大会は、病院広報の理解・浸透と質の向上を目的に、NPO法人HIS研究センターが主催し、毎年開催されております。全国の病院が取り組んでいる広報活動が発表され、昨年度、当院が最優秀賞をいただいたことから、四国中央市での開催となりました。

当日は、全国から約200名の方にご参加いただきました。また、特別講演として、「HAKUHODO DESIGN」代表取締役社長　永井 一史 氏に「思いをかたちにする」というテーマで、これまで手掛けられた仕事や、現在におけるデザインの価値についてなど、お話しいただきました。

第4回 HITO病院 地域医療連携懇話会

平成28年12月1日、(木)当院において、「第4回HITO病院地域医療連携懇話会」を開催しました。

当懇話会は、地域の関係医療機関の先生方やメディカルスタッフの方々と連携を深め、市民の方を地域全体で支えていくことを目的として毎年開催しております。

はじめに、四国中央市長 篠原 実 氏より、ご挨拶いただき、小川 晴幾 副院長から、「地域包括ケアシステム実現にむけての当院の取り組み」、湯澤 浩之 消化器外科部長から「当院で行なっている腹腔鏡の手術について」、紹介しました。

最後に、京楽 格 神経内科部長が「この半年で経験した神経疾患」と題して、神経難病やパーキンソン病の症例について、講演を行いました。当日は114名の参加があり、盛会のうちに終了しました。

野球チーム「ヒポクラテス」発足 3病院交流戦　開催

当院が所属する石川ヘルスケアグループに、今年4月から新たに野球チーム「Hippocrates(ヒポクラテス)」が発足しました。

活動1年目のシーズンは市民スポーツ祭での優勝に続き、近隣3病院交流戦(第1回 HITOカップ)でも優勝を果たし、2連覇を達成しました。

多職種で結成されたチームですが、元野球少年達は改めて野球の楽しさを感じています。

来シーズンも良い成績を残せるように頑張りますので、応援よろしくお願いします！

駅伝チーム 大会4連覇！

平成28年12月4日(日)、「第13回市内駅伝競走大会」が開催され、HITO病院から男女計4チームが出場、完走しました。

今年は、出場チーム総数が103チーム(775名)あり、一般男子二部では、選抜チームが4年連続の優勝を飾りました。また、星川 龍也、鈴木 将也、菊池 貴行の3名が区間賞を受賞しました。

HITO病院
Official Site

美容外科Be
Facebook

※社会医療法人とは、公的機関に準ずる機関で、
営利を目的としない公益性の高い医療法人のことです。

HITO 病院

※
社会医療法人石川記念会 HITO病院
〒799-0121 愛媛県四国中央市上分町788番地1
TEL：0896-58-2222 FAX：0896-58-2223 URL：hito-medical.jp